

福岡城  
肥前堀

市庁舎建設に伴う埋蔵文化財の調査

福岡市埋蔵文化財調査報告書第131集

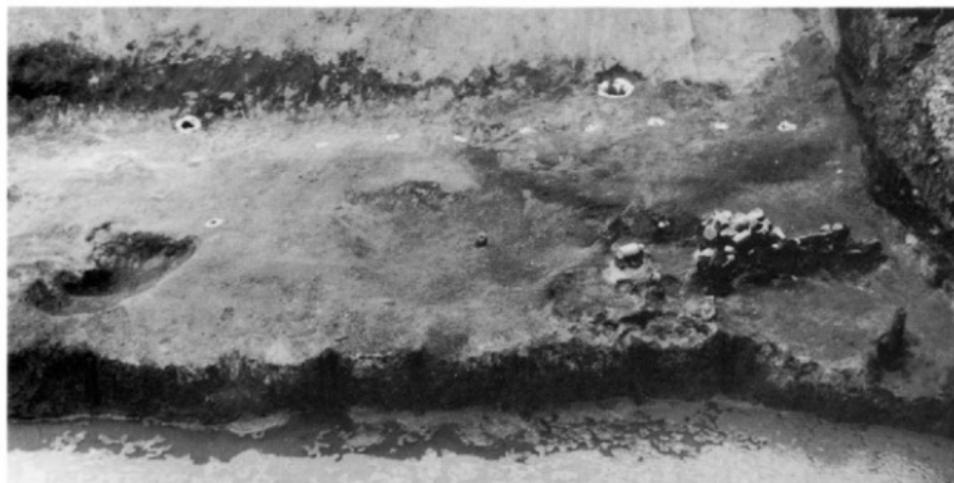


Fig. 1 発掘された肥前堀

1986

福岡市教育委員会

序

福岡市は発展めざましく、都市化の一途をたどっています。市庁舎は永年、市民の象徴として親しまれてきましたが、最近その老朽化が進み、今度、21世紀に向けて新庁舎を建設する運びとなりました。

市庁舎敷地の一部に福岡城肥前堀が埋没していることは周知のことでしたが、市教育委員会では、建設工事に先立って肥前堀の発掘調査を実施いたしました。文献のみで知られていた肥前堀が調査によって確認されたことは、福岡の歴史を考えていく上で大切なことです。

この報告書が、市民の皆様の埋蔵文化財への理解と認識を深める一助となり、また研究資料としても活用いただければ幸いです。

発掘調査、資料整理について、ご配慮をいただいた関係各位ならびに諸先生に対し深甚の敬意を表するものであります。

昭和61年3月31日

福岡市教育委員会

教育長 佐藤善郎



Fig. 2 発掘地点と周辺 (4000分の1)

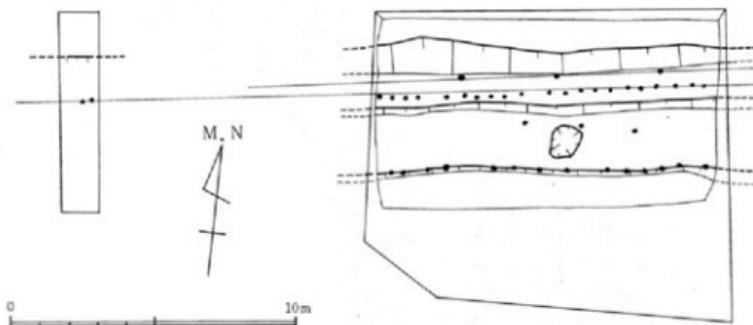


Fig. 3 肥前堀北岸の状況 (1/200)

## 調査

### 1. 肥前堀と調査地点

肥前堀の推定範囲および調査地点は Fig. 2 に示した。肥前堀は1910年(明治43年)の第13回九州沖縄8県連合共進会の開催のためにそれに先立って埋め立てられた。

肥前堀の調査は、天神地下街の建設時の立会調査でその存在が確認され、次いで、福岡県の移転に伴い、福岡県教育委員会の調査がある。福岡県の調査結果は報告されていないが、石垣が残っていた。今回の調査では石垣は確認できなかったが、この所見は江戸時代の古地図と一致するものである。

今回の調査はトレンチでその位置を確認し、一部を拡張して

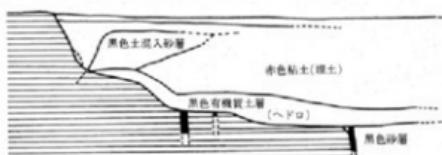
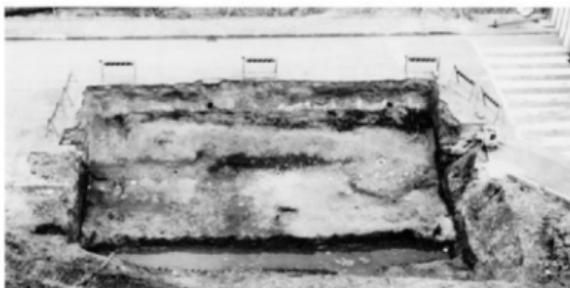


Fig. 4 堀内土層断面 (1/60)



Fig. 5 遺物出土状況



堀の状態を観察した。検出遺構はいずれも堀の北岸で、南岸は敷地外になるために不明。北岸の構造は基盤層（砂層）を二段に削り出して杭を打ち込み護岸したものである。下の杭列は50cm間隔で径10cm前後の杭を打ち込むが、杭の長さ、堀の底については危険性があったので確認していない。下段の杭列から北に約3mの平坦面があり、2.5mのところに一直線に打ち込まれた杭列がある。杭は径5cm前後で、杭間は50cmである。地山の掘削面との間に約50cmの間隔があるが、この間に土砂を充填し段を形成していたと思われる。掘削の裾部に3.5m間隔で径10cm前後の杭が打ち込まれているのはこのことを裏づけるものである。調査区内では肥前堀は杭で護岸され二段に形成されていたと思われ、下段において2.5m幅の犬走りが

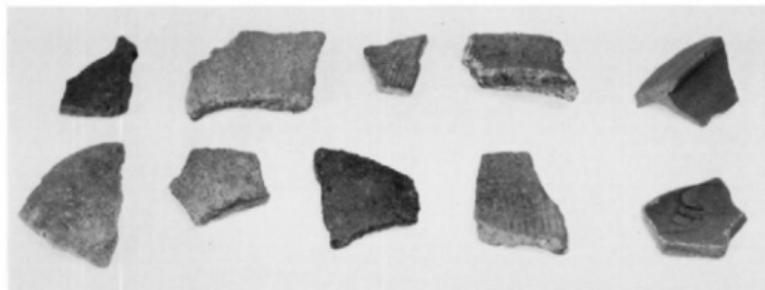


Fig. 7 肥前堀出土の須恵器、土師器

Fig. 8 肥前堀出土の瓦

Fig. 9 肥前堀出土の下駄

あることになる。

肥前堀を埋める土層は、上より道路部のアスファルト、明治42年に埋められた赤褐色の粘土層、堀底に堆積した黒色有機質土層（ヘドロ）下段の堀を埋める黒色砂層となっている。

## 2. 遺物

肥前堀から出土した遺物はすべてが黒色有機質土層および黒色砂層に伴うものである。しかし、黒色砂層から出土するものは少ない。出土遺物は微量の須恵器、土師器を除いて大部分は近世のものでその下限は堀が埋められた明治42年より以前のものに限定される。遺物は生活用品が主で、陶磁器類をはじめとして、木製品等多種にわたっている。

以下、出土遺物についてみてみよう。

### 福岡城築城以前の遺物

福岡城築城以前の遺物として若干の須恵器、土師器、中国製陶磁器がある。須恵器は古墳時代の杯、土師器は小破片であるが古墳時代の所産と考えられる。中国陶磁器は龍泉窯系のものである。

いずれもあまり磨滅していない。



陶磁器類 (Fig. 10)

多くの種類のものがあり、器種は茶碗類が多い。その他のものとして錫製の茶托、灯明台等がある。



Fig. 10 肥前堀出土の陶磁器類

### 文房具

文房具と考えられるものにインク壺、インクビン、鉛筆がある。特にインク壺と思われるものが一括出土した。外国製で英文のスタンプがある。いずれも片口の注口がついている。インクビンはガラス製、鉛筆は丸型のものである。

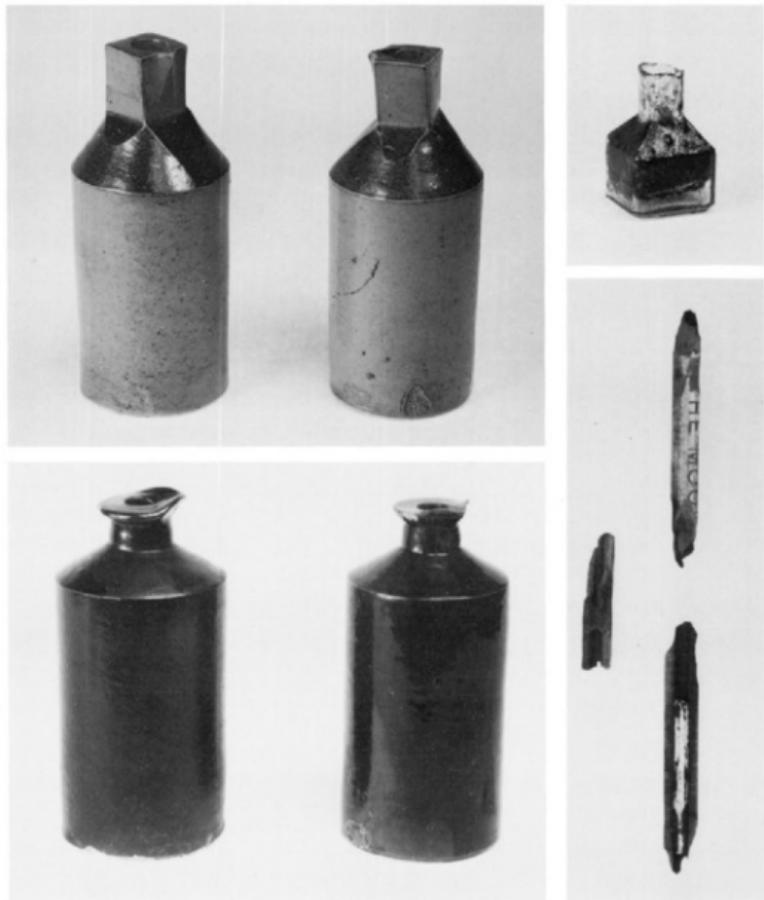
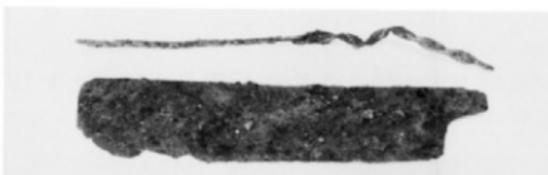


Fig. 11 肥前堀出土の文房具類



火ばしと包丁



しゃもじ



シユロ製タワシ



カボチャのへた



ドングリ  
松かさ  
ウメの種

Fig. 12 炊飯具と自然遺物

### はし (箸)

うるし塗り、割りばし等がある。  
割ばしには焼印をつけたものがある。判読  
できるのは、**⑩ 子持寿し** 桜のマークに  
**子持寿し** である。箸の量が多いことが注  
目される。



Fig. 13 箸の焼印

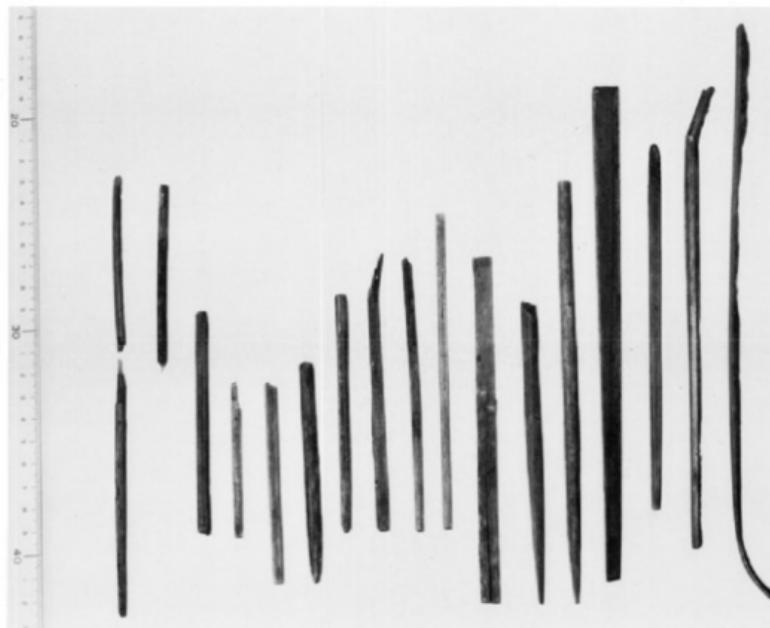


Fig. 14 箸 (hashi)



Fig. 15 木製品

#### 木製品

木製品には曲げ物の底板、樽の栓、糸巻き、下駄、その他板切れ等がある。

### 3. まとめ

- 肥前堀の調査で判明したことを列挙しまとめにかえたい。
1. 古墳時代の須恵器、土師器の出土は土器自体に磨滅が少なく、他から流れこんだものとは考えられず、その出所が問題となろう。砂丘の形成時期等再考する必要がある。
  2. 肥前堀の位置が從来より推定されていた線と一致し、本回調査した部分が古地図等と一致し、石垣がないことが改めて裏づけられた。
  3. 肥前堀北岸の構造が具体的に把握できた。すなわち、杭列で土留めされた2段になり、大走りをもつことが判明した。
  4. 堀の堆積土中より明治42年以前の生活用具が多量に出土し、民俗的にも興味ある資料が含まれている。
- 以上であるが、今後、福岡城関連の調査が進展することにより、さらに重要な成果が得られることと思われる。

#### 調査組織

調査主体	福岡市教育委員会
調査総括	埋蔵文化財課長 柳田 純孝
調査担当	第1係長 折尾 学 文化財主事 山崎 純男
調査庶務	第1係 松延 好文

調査年月日 1985年10月14日～10月19日

本書の編集執筆は山崎がこれをおこなった。

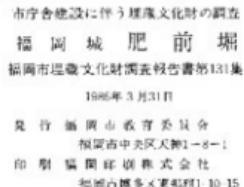




Fig. 16 泥人形